

中等科・高等科

BLEND 導入について

鈴木 雄紀

2022年度から導入された校務支援システム BLEND は、生徒情報管理、出席・成績管理、保護者連絡などの校務を統合して行うクラウドベースのシステムである。導入の背景には、高校の単位制・選択科目制への対応、教職員の業務効率化、幼小中高大一貫校ならではの情報共有のニーズがあった。導入により、出席や成績管理の効率が向上し、教職員の負担が軽減された。今後は、中高での運用開始に加え、幼小中高大一貫校としての特徴を活かした情報共有も視野に入れている。

中等科・高等科では、2022年度から校務支援システム BLEND を導入した。BLEND は、フルクラウド統合型校務支援システムで、生徒情報管理、出席管理、成績管理、保護者連絡など様々な校務を1つのシステムで行うことが可能である。

導入の目的と経緯

BLEND 導入の主な目的は次の通りである。

①単位制及び選択科目制度導入への対応

2022年度から開始された高等科の単位制導入や選択科目制度の導入に伴い、多様な科目履修に対応する必要性がでてきた。それまでは、すべての生徒が同じ科目を履修していたため、名簿作成や帳票の出力は、学年ごとにエクセルを利用して行っていたが、新課程以降、生徒の科目履修は複雑となり、授業ごとの出席名簿や、生徒それぞれ異なる帳票を手動で作成することは、困難であることが予想された。そのため、生徒自身による履修登録から名簿作成、出欠管理、成績処理、帳票出力までをシームレスに行える校務システムの導入が2021年度夏より検討された。

②教職員の働き方改革

以前より、教職員の日常的な超過勤務を改善する施策は急務とされていた。出席管理、成績処理、帳票出力は一部手動でしていたため、システムを利用した自動化による業務時間の短縮が期待された。また、学校から保護者への連絡や、保護者から学校への欠席の連絡は、これまでメールや電話で行っていたが、1つのプラットフォームを用意することで、必要な範囲で双方の連絡を効率化することを

目指した。

③幼小中高大一貫校ならではの情報共有

女子部と男子部が共学化するにあたり、それまで二つの部でそれぞれ行われていた校務関係のシステムを統合し、中等科と高等科に再編された際にも、それぞれに分かれるのではなく、統合され連携されたシステムを用いて教育活動を展開したいという目的があった。更に、生活団幼稚園から最高学部まで一貫で導入すれば、幼小中高大一貫校としての特徴を活かした情報共有やポートフォリオの蓄積が可能となり、児童生徒学生を丁寧に見守ることができるといった体制の構築を目指すことも校務支援システム導入の目的である。

これらの目的から、いくつかの校務支援システムを比較検討したうえで、モチベーションワークス株式会社が提供するフルクラウド統合型校務支援システム BLEND (ブレンド) を導入するに至った。

現在の実施状況

女子部・男子部(中等科・高等科)では、2022年度より運用を開始し、主に以下のような内容について BLEND を利用している。(初等部、最高学部でも導入を始めているが、本稿では中高の利用状況についてのみ記載する。)

- ・出席管理(日々の出欠入力、保護者からの欠席連絡、保護者への出席状況の開示、集計)
- ・成績管理(各科目の出席入力)
- ・帳票の出力(通知表、調査書、指導要録など)
- ・生徒情報の管理、記録の共有

- ・保護者への連絡(連絡配信、行事予定の公開、資料の共有)
- ・施設利用の管理

BLEND 導入により、出席管理や成績管理が効率化され、教職員の負担は軽減されている。以前の手作業からの脱却により、時間と労力の節約が実現された。導入の目的通り、単位制や選択科目制度の導入に対応しており、柔軟な学習環境を提供している。

出欠管理については、保護者からの欠席連絡と紐づくことにより、生徒の欠席状況に対するスムーズな把握が可能となった。一方で、教員による管理が導入され、従来生徒が行っていた内容を教員が担うことにもなったため、この変更に伴う課題や調整の必要性については検討の必要があるかもしれない。

BLEND のシステム自体についても、自由学園の状況に合わせて調整やカスタマイズを行っている最中であり、教務担当者には一定の負担が発生しているが、これはシステムへの適応の一環として受け止めており、運用の効果を重視して調整を進めている。